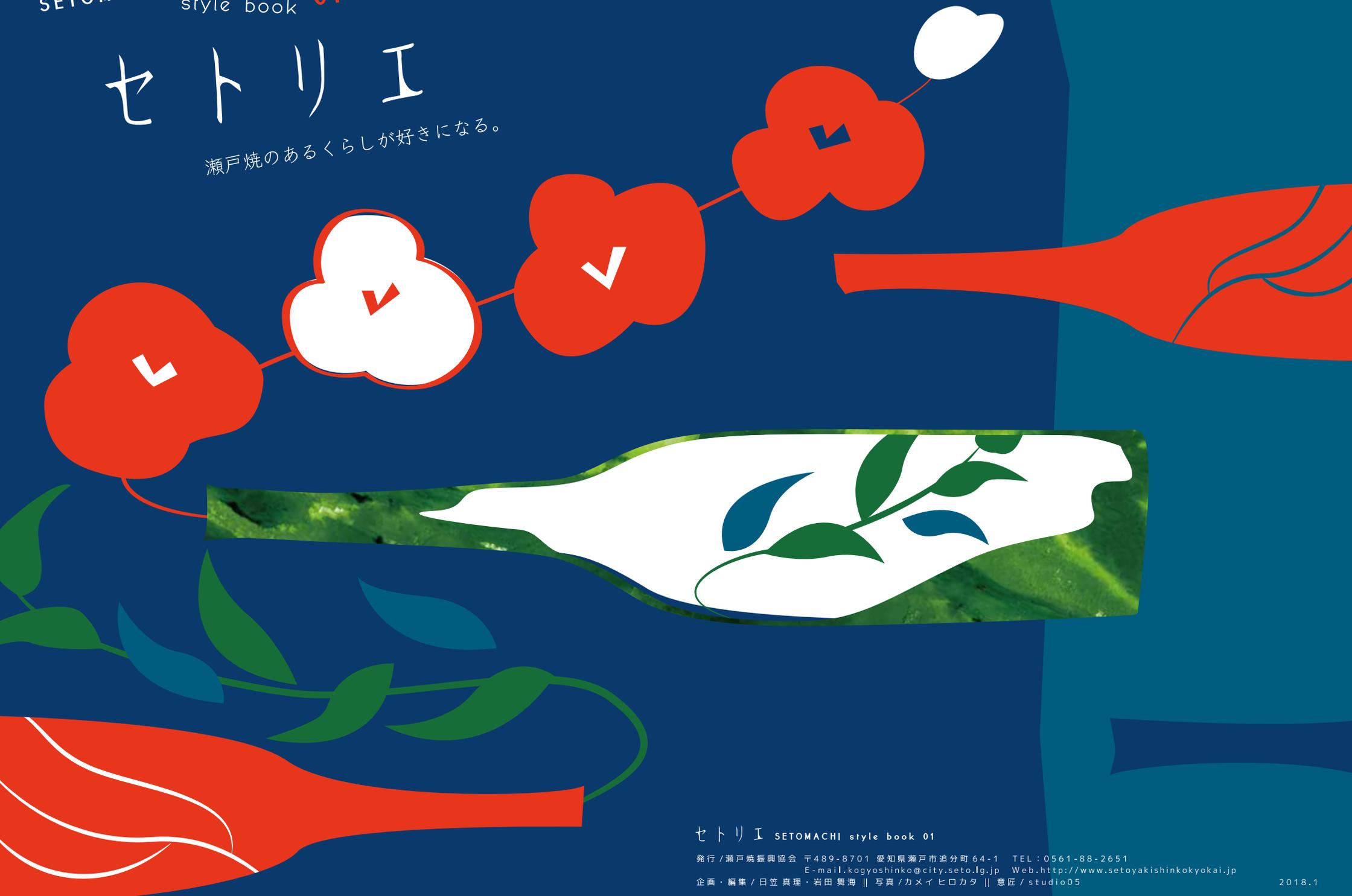


SETOMACHI style book 01

# セトリイ

瀬戸焼のある暮らしが好きになる。



セトリイ SETOMACHI style book 01

発行 / 瀬戸焼振興協会 〒489-8701 愛知県瀬戸市追分町 64-1 TEL : 0561-88-2651  
E-mail: kogyoshinko@city.seto.lg.jp Web: http://www.setoyakishinkokyoikai.jp  
企画・編集 / 日笠真理・岩田舞海 || 写真 / カメイヒロカタ || 意匠 / studio05

瀬戸焼のあるくらしが好きになる。

土練り三年ろくろ十年

陶都千年、瀬戸のまち。

日本遺産に認定された

日本六古窯のひとつです。

「セトモノ」について

一度は手にしたことがある。

海外でも「SETOMONO」って

広く知られた歴史がある。

ものづくりの地ではいつも

身近なことが、あたらしい。

ツクリテとツカイテを

ゆるやかにむずぶ情報誌

セトリエも新たにリフレッシュ。

瀬戸の「もの・ひと・こと」が

さらにつながりひろがる

せとまち情報誌として

多彩な魅力を発信していきます。

(作品：右から)  
「黄瀬戸波紋花器」天野勝義  
「睡蓮文鉢」森本静花  
「ロータスフレーム」翠窯 穴山大輔  
「カレー皿 灰釉」翠窯 穴山大輔  
「緑色星人」阿部未来  
「織部鶴首花瓶」六兵衛陶苑 加藤大吾  
後方：「流」榎田裕史  
前方：「黄瀬戸鉄線紋大皿」作助窯・加藤圭史  
「lighting(光の壁)」衣田寛  
「織部掛分花入」作助窯・加藤圭史  
「冰玉花入」衣田寛 パウザワークス 岩淵幸治  
「panelworkIII」factory/butch 岩淵幸治

(右から)  
森本静花  
翠窯 穴山大輔  
榎田裕史  
岩淵幸治

## 100年先も愛されるものづくり

今までになかった  
ものを創りたい

陶磁器といえは「せとも  
の」と呼ばれるようになった  
ほどのやきもの産地、瀬戸。  
海外でSETOを語る時にも、  
Ceramic(陶磁器)と、ウワー  
ドは外せない。他産地と比  
べた時、とりわけ特徴的な  
のが、平安・鎌倉時代では国内  
で唯一、施釉陶器を生産し  
ていたという点。そんなイ  
ノベーター気質が、瀬戸者  
の根っこにはあるようだ。

今でこそデザイナーとのコ  
ラボレーションが盛んに唱わ  
れるが、株式会社セラミック・  
ジャパンの初代社長 故・杉  
浦豊和さん、現社長 大橋正  
之さん兄弟は、一九七三年  
の創業当初から北欧のクラ  
フトやデザインに着目し、  
武蔵野美術大学出身のデザ  
イナーらと交流を重ねてき

パイプ構造をガバ鑄込みで仕上げた「輪押し」(still green)。MoMAショップでも販売 デザイン：徳田祐子



た。そして、「自社オリジナルを自分たちで創ろう！」と彼らを起用。当時は窯屋を間借りし、アルバイトで資金を調達しながら開発に取り組んだという。

「自然・風土・暮らしに根ざし、同じものを長く作り続けることで磨かれてきた北欧のデザイン思想に共鳴し、自分たちも一〇〇年先まで長く作り継がれるものづくりをしていきたいと思った」と、大橋さん。「ヒットしているからと言って、少しアレンジを加えて同じようなコピー商品を作って売るとかではない。売るためにニーズを汲むというよりも、私たちが新たなニーズを開拓

し、提供していきたい、今までになかったものを創りたいという思いが強かった。それが今日のロングセラー商品に繋がっています」。

### 価格競争より 価値あるものに

ブランドとして認知されるには、客観的な評価を得ることも大切と考え、Gマーク(グッドデザイン受賞賞)取得や日本デザインコミッティーなどのデザインコンペにも果敢にチャレンジしてきた。加藤達美、小松誠など、才気あふれるデザイナーと組み、数々のデザイン賞を受賞。

量産プロダクトとは一線を画した斬新な商品を世に送り出し続けている。

「販売においても一都市一店舗を基本に、うちの商品だから売りたい、取り扱いたいというショップを大切にしています。極端に言えば、一〇〇円の物を一〇〇個ではなく、一万円の物が一個売れるものづくり。その価値を認めて選んでもらえるよう努めています」。

瀬戸には、デザイナーの発想をできる限り忠実に再現し、クオリティの高い商品づくりを支える原型や鑄込みなどの職人技術がある。前例がないような変形的なデザインであっても、やって

みよう、もっとこうしたほうがいい、と前向きに取り組んでくれるネットワークがあるからこそ、唯一無二のユニークな商品が生まれると、大橋さんは語る。

デザイナーが、心を動かす。技術が、ものを語る。ありきたりでない、はっと心震わすプロダクトには、日常のひとつコマをアートのように彩る力がある。海を越え、時を超えて愛されるせともの未来を見つめたものづくりは、次世代のツクリテへの大きな刺激にもなっている。



自社開発・デザインのオリジナルプロダクトをはじめ、OEMも幅広く対応。



特殊なデザインは手間も時間もかかるが、追求するのは「コストよりクオリティ」。



これまで数多くのデザイナーが手掛けた陶磁器を製造・販売。展示ルームにて、「瀬戸が好き、やきものが好き！」というスタッフと大橋社長（前列右端）。

#### 株式会社セラミック・ジャパン

愛知県瀬戸市中品野町60-4  
TEL: 0561-42-0182  
http://www.ceramic-japan.co.jp

1973年の会社設立以来、一貫したデザインポリシーのもと、瀬戸の伝統技術とデザイナーとのコラボレーションによるプロダクトを創出する陶磁器メーカー。自社製品が MoMA (ニューヨーク近代美術館) のパーマナントコレクションに選定。

＝撮影協力＝

#### Art Space & Cafe Barrack

愛知県瀬戸市末広町1丁目31-6  
タネリスタジオビルヂング1階  
営業日：木曜日～日曜日  
TEL: 080-8268-1992

2017年6月タネリスタジオ内にオープン





瀬戸焼のある暮らし

かたちであそぶ、かたちをくちくち。

片方につき出した口があるから、片口。

表情豊かなかたちに、つい惹かれてしまいます。

「注げる器」として、お酒や汁ものほもちろん、

小ぶりなものならオリーブオイルやソースなど

調味料を入れて、料理に添えることも。

東北出身のスエトシヒロさんが手がけるのは、

マットでありながら透明感のある、白肌の片口。

「ホヤ」をイメージしたおちよぼんちの方には、

黄金色の金柑のコンポートをごろんごろんと。

直線と曲線が美しい「シズクガタ」の方には、

里手タイプを詰めて白の世界を味わってみる。

注いでも注がなくとも、やっぱり楽しい片口。

使えば使うほどおもしろ味のわく器です。



スタイリング：器の案内人「和の色」日笠真理



スエトシヒロ

一九七二年福島県生まれ。愛知県立瀬戸窯業陶芸専攻科修了、以降、伝統的工芸品「大堀相馬焼」の大陶窯にて従事。二〇一一年より瀬戸に工房を移して制作。

写真右：ホヤ注器

写真左：シズクガタ



珈琲豆は、自家焙煎珈琲専門店「Coffee SAKURA」ブレンド。自家製スイーツ等を、瀬戸焼や大正～昭和初期に使われていた器などで味わえます。

里山のゆるやかな時間を淹れたての珈琲とともに。  
瀬戸市北部の曾野町、里山の景色が懐かしい水野川沿いに、築一〇〇年の古民家カフェがあります。かつては養蚕農家であり、当時使われていた道具や古筆筒、囲炉裏などが落ち着いた佇まいを醸し出しています。  
一杯ずつハンドドリップで淹れる珈琲の薫香が店内に広がる、幸せな気分。小倉トーストなど選べるモーニングや、ランチも充実、白玉クリームみつ豆やコーヒーゼリーパフェなど自家製スイーツも人気です。



愛知県瀬戸市曾野町1235  
☎ 0561-56-1451 📺 6台  
🕒 9:00~17:00 📅 火曜  
🌐 http://sonocoffee.jimdo.com

今日の一服  
古民家喫茶 曾野珈琲店

ものづくりの庭から

瀬戸のまちに吹く 風を伝えるひとの ヒトコトコラム

ものつくる、ひとつどう、

「道」と「場」。 talo-K(タロケイ)/みちば屋 湯浅かおり

知りたいことはキーワード検索で、欲しいものはクリックひとつで手に入る時代になった今、「インターネットを通じて届くモノよりも、手から手へワクワクするコトを橋渡ししたい」という思いでスタートしたのが生活雑貨店『タロケイ』でした。やがてそれが、もっとお客さまとの距離を近くして、ツクリテさんの表側も裏側をもご紹介したいと、展示と学びのスペース別館『みちば屋』のオープンへとつながっていきました。

瀬戸は、良質な材料とツクリテさんの心意気が街の至る所に宿る「せともの」の産地。常々感じるのは、市外の方も何かを求めて直接足を運び、目で確かめ、体験しに来られる街なんだなあということ。そして、この5年間、ものづくりのワークショップやイベントを通じて、『みちば屋』という場が、その名の通り新しい風も人も物もさまざまに出会い行き交う交差点のような役割になってきているようで、とても嬉しく思います。



瀬戸の量産陶磁器に欠かせない「型」に使う石膏と廃棄材の白雲タイルでアロマグッズをつくるワークショップ等も開催。



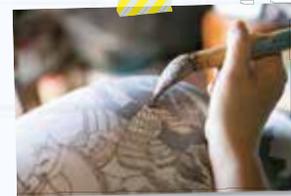
みちば屋イベントでは、ものづくりや食とコラボした「タロヨコ食堂」も人気。  
(右奥より)  
トルク・ポーセリン: 杉浦みどり/タロケイ: 湯浅かおり/凹-haku: 深谷友博/いたまど屋: 板倉明義・板倉友美(左)

talo-K(タロケイ)/みちば屋 愛知県瀬戸市陶原町6-19 ☎ 0561-76-1650 🌐 http://www.talo-k.com

瀬戸染付焼の主な工程

土練り → ろくろ/鑄込み等による成形 → 乾燥 → 形を調整 → 素焼き → 呉須絵具等で下絵付け → 施釉 → 本焼成(約1300℃で焼成)

輪郭無しで素地に筆1本で繊細に描く「付立筆(つけたてふで)」、細かい線で描く「線書(せんがき)」、呉須で濃淡をつける「濃み(だみ)」など、緻密かつ多彩な技法がある。



濃淡をつけやすいため、呉須を発酵させたお茶で薄める。

釉薬は本焼成で溶け、ガラスの被膜となって染付の“青”が現れる。  
Point  
焼成時に一定時間窯の温度を高温のまま維持する「ねらし」を行い、釉薬を熟成させることで、透光性があり、着画した下絵もやわらかな潤いのある仕上がりととなる。



瀬戸が得意とする「ガバ鑄込み」の技法で成形。



伝統的工芸品 瀬戸染付焼

素焼きの素地に藍色の呉須(ごす)で絵付けをして、釉薬をかけて焼成する「染付焼」。瀬戸では江戸時代後期より、加藤民吉が九州で学んだ技法を用い、瀬戸特有のやわらかな白さを持つ磁器素地に、写実的な絵付けを施すことで「瀬戸染付焼」として独自に発展。色の濃淡、構図、モチーフなどデザインの多彩さも魅力です。

9月の第2土曜・日曜日に開催する「せともの祭」では、「青の広場」にて窯元による実演を見ることが出来ます。

<展示・実演・体験>

瀬戸染付芸工館  
愛知県瀬戸市西郷町98番地 TEL: 0561-89-6001



撮影協力: 里秋園(資) 丸八製陶所  
愛知県瀬戸市窯神町72 TEL: 0561-21-6173  
4代目高島功治さん(一級陶磁器技師士)・美穂さん(伝統工芸士)夫妻。分業が一般的になっている中、土作り・釉薬絵具調合等すべて自社で行っている。

◎ガバ鑄込み◎

伝統的な成形方法のひとつで、数個の割型を組み合わせた石膏型の中に泥を流し込み、ある程度乾いたら余分な泥を捨て割型を外す。

◎呉須◎

やきものの染付に用いる酸化コバルトを発色の主成分とする染料・絵具。また呉須焼の略称。高温で焼くと藍色に発色する。

◎伝統的工芸品◎

日常生活で使用され、手作業を中心に伝統的な技術・技法・原料を用いるなど一定の基準に基づいて、経済産業大臣が指定する工芸品。

# 千年陶都の 魅力とは？



六古窯日本遺産クリエイティブディレクター 高橋孝治

聞き手：ラジオサンキュー-FM84.5 パーソナリティ 高橋ひろこ

長い年月、窯の火を絶やすことなく、連続と現在まで続く日本六古窯のやきもの産地。そこに息づくものづくりの営みや歴史、文化財、まち並み。それらのストーリーをもっと多くの人に知ってもらいたい！と瀬戸市を含む全国六市町が提唱する『きつと恋する六古窯ー日本生まれ日本育ちのやきもの産地ー』のストーリーが、二〇一七年四月、日本遺産に認定されました。

日本遺産としての瀬戸の魅力って？もっと好きになりたいから、もっと知りたい。せとまちの新たな発信の場となる古民家(旧川本柁吉邸)から、次の千年への扉を開くホットな対談をお届けします。

**高橋(ひ)**：瀬戸・常滑・信楽・丹波・備前・越前の日本六古窯のうち、愛知県には二つのやきもの産地が含まれているんですね。日本遺産の認定を受け、ラジオサンキューでも様々なPRを展開中ですが、六古窯のクリエイティブディレクターを務める高橋さんの目から見た瀬戸の魅力とは何でしょうか。

**高橋(孝)**：例えば、瀬戸は窯道具、常滑は焼酎瓶や土管などですが、どちらも先人達が築いてきた「窯垣」がまちなかに景観として遺されているのが印象的ですね。僕が以前デザイナーとして携わってきた『無印良品』で、国内生産にこだわって続けたのが陶磁器。その産地の一つが瀬戸でした。六古窯の中でも唯一、陶器と磁器の両方を扱う産地。特に原料が豊富で、分業制によって質と量ともに高いレベルで応えることができるという強みがある。千年の歴史が

あるということは、産地としての力を維持して淘汰に耐え、何代にもわたり脈々と今日まで継承され続けてきたわけですから、ツクリテや産地は多くのノウハウやストーリーを秘めているはず。そこに光を当て、検証し評価することが大事だと考えています。それを軸に、六古窯や瀬戸焼のPRをしていくことで、目新しさだけの一過性のイベントにならずに、産地やツクリテもそれぞれが未来を描いていけると思います。

**高橋(ひ)**：瀬戸で陶芸をやるという人にとっては、良質の土はもちろんのこと、やきもの専門のお店や業者さん、専門的な指南や協力をしてくれる人なども周りに多く、やきものをやる上で実に好環境。「ここでやっている」と思える懐の深さがある」と皆さんおっしゃいます。あらためて産地としての歴史と魅力を市民も

認識することで、まだまだ様々な可能性が見えてきそうですね。

**高橋(孝)**：そうですね。それには、ツクリテやツカイテが「手づくりだから」「伝統だから」いいということこそで思考を凝らす、瀬戸焼とは何か？やきものとは何か？と、絶えず振り返りながら、新しいものづくりに取り組んで、産地をリードしていくことが大切。決して伝統・名品の表層を追いかけただけではなく、その背景にある当時のツクリテの意図を深掘りして欲しいです。

**高橋(ひ)**：それこそものづくり産地ならではの「ロマン」ですね！瀬戸には現存する窯跡が八〇〇力以上あり、最古では十世紀頃の遺構まで見ることが出来ます。同じ場所でも千年前に焼かれていたという、歴史の側面から興味を駆り立てられることもある。日本遺産を機に、



瀬戸ならではの風景「窯垣の小径」

瀬戸のまちの魅力をぜひ発信しにきてもらいたいです。

**高橋(孝)**：やみくもに観光客を呼び込むPRではなく、ちゃんとお迎えできる体制を整えるために、地元発信のメディアによるPRは重要です。そして、実際に瀬戸を訪れた時、お店に入ったら瀬戸焼の器で食事ができ、まちでは買える物がたくさん、瀬戸焼のアイデンティティに触れることができたらいいですね。

**高橋(ひ)**：はい！千年という時間を感じることで、「今」を見つめ、「未来」を思い描くことができると考えています。

## せとまちツクリテセンター

「瀬戸のまちに新しい風が吹き始めた」そう感じている人もいるのでは？  
2017年6月、『せとまちツクリテセンター』がオープン。陶芸、ガラス、木工、金工、手芸、絵画、飲食など「ものづくり」するツクリテを、様々な面から支援し、行政・まち・ひとをツナグ拠点が生まれました。

### どんな支援があるの？

専任コーディネーターのアドバイスをはじめ、支援制度の情報提供や各種申請・手続き等のワンストップサービス窓口として、また、企画展示で瀬戸のツクリテを紹介。作品展など個人の発表の場としても活用できます。

### だれが使えるの？

いつでも誰でも、気軽に立ち寄れる交流サロンのような所です。Wi-Fiも完備しています。  
ツクリテ・人材バンク登録者は作品展やワークショップ、打合わせ等に利用できます。

### どんな活動をしているの？

ツクリテ同士の情報交換、展示・販売会やイベント等の自主企画を実施しています。  
また、バイヤーやメーカー、ギャラリストなどからの「こんなツクリテはないか？」という問い合わせに対応したり、ツクリテへの身近な情報提供や交流など、瀬戸のものづくりと人脈がひろがりつなげる拠点に。瀬戸のツクリテのことが知りたい！という方も、ぜひ立ち寄ってみてください。

コーディネーター 吉田薫さん  
ツクリテさんが本当に求めているものを具体的に知ることで、よりの確かなサポートを提供できるようにしていきたいです。



ガラス工芸家 田仲哲也さん  
この4月に大阪から瀬戸に移り住み、ここでいろいろな方と出会えたのが心強かったですね。「瀬戸おもろいな」って思えました。

陶芸作家 深田涼子さん  
出張陶芸教室にも書類作り等の事務作業にも最適な環境ができて助かります。行政の方と同じ目線で語り合えるところに、魅力を感じますね。



ツクリテ情報の発信に留まらず、バイヤー、飲食店、やきものファンなどポータルレスに人が出入りし、つながるきっかけに。  
場所は、名鉄瀬戸線尾張瀬戸駅から徒歩約4分。



### せとまちツクリテセンター

愛知県瀬戸市末広町 1-3  
0561-89-5411 有リ  
水曜日～日曜日 11:00～18:00  
休 月・火曜日、祝日、年末年始  
http://www.facebook.com/setomachitsukurite/

## Seto Open Factory

2017年11月1日(水)・2日(木) 開催レポート

### ツクリテの現場を ツナギテに大公開。

国内有数のやきもの産地瀬戸。伝統的な技法もあれば、最新のセラミック技術もあり、型・素地、釉薬、絵付けなど多様な「ものづくりの現場」が存在する。「瀬戸の高い技術力と現場の空気感を知ってもらいたい！」そんな思いから瀬戸市内のツクリテ有志による〈Seto Open Factory〉が始動。二〇一七年十一月、各社の仕事を公開する初の試みとして見学ツアーが開催された。

参加者は、東京、大阪、名古屋のバイヤーやデザイナーなど二十名。瀬戸を語る上でかかすことのできない歴史を

学んだのち、  
赤津・品野・  
水野地区の窯  
元、型屋、商  
社の八社を見  
学して回った。



表情豊かな釉薬や質の高い手仕事で瀬戸焼の魅力。

### 「できない」理由を 理解することで解決へ。

「いくら高い技術でも、エンドユーザーにその商品価値をわかってもらえなくては購買力につながりません。例えば一見同じように見える製品でも、圧力鑄込みとガバ鑄込みとは得意分野や生産効率などが異なっています。釉薬や絵付けのバリエーション、各社の特色など伝わりにくいことも多いため、まずは、バイヤーさんに現場を見て知ってもらい、興味を持ってもらう機会を作ろう！」と、企画しました。(椿窯・林栄治さん)



鑄込み成型の「圧力」と「ガバ」を同時に比較見学できる貴重な体験も。

少人数ごとの見学では、各工程の随所でデザイナーやバイヤーそれぞれの視点からの質問が飛び交ったり、懇親会では商品企画への提案やアドバイスも活発に行われた。「瀬戸焼のものづくりはすごい！」(技術・流通両面で)できること・できないことの違いやしくみが理解でき、よりの確な発注につながる機会になりました(参加者より)産地が抱える問題についても積極的に意見を交わすなど、生産者側にとってもおおいに刺激や参考になった



ローラーマシンや最新のパソコン印刷機など。

Seto Open Factory  
椿窯 / 三峰園窯 / 生宝陶苑 / 夢工房 / 柴田隆製陶所 / 双寿園製陶所 / 染付窯屋 / エム・エム・ヨシハシ / アイトー

二日間。今後も、「やっぱり瀬戸焼はおもしろい！」と関心を持ってもらえるような企画で継続していきたい」と、賛同者を呼びかけていく。



瀬戸焼ミュージアムで、瀬戸焼の歴史や産地について学ぶ。

# Setolier information

セトリエ

## セトリエ

- ①瀬戸+アトリエ=瀬戸のまち全体がやきもの文化を生み出すアトリエという意味。
- ②瀬戸焼の魅力を紹介するフリーペーパー。ツクリテとツカイテをゆるやかに結ぶ新しい世界を提案・発信。



## 瀬戸焼振興協会 公式ホームページをリニューアル!

セトリエ全号の閲覧もできます。

瀬戸焼に関する知識・情報を発信する瀬戸焼振興協会の公式ホームページが、一新。瀬戸焼の歴史や種類、扱い方・器のかたちについてもわかりやすく紹介しています。また、セトリエの最新号〜バックナンバーもすべて閲覧・ダウンロードできます。ぜひチェックしてみてください。

<http://www.setoyakishinkokyoai.jp>



## セトリエ公式 Facebook ページ

瀬戸焼の最新情報をチェック!

誌面に掲載しきれないトピックスや、各展覧会・イベント、「瀬戸焼」に関する最新情報を随時更新中。下記URLもしくは「セトリエ」でインターネット検索してご覧ください。皆さまからのコメントもお待ちしております。

 <http://www.facebook.com/setolier>

主なセトリエ設置場所 > 瀬戸観光案内所 (パルティセと1階)  
せとまちツクリテセンター  
瀬戸蔵ミュージアム  
道の駅瀬戸しなの 他

その他の設置場所はこちらから!

<http://www.setoyakishinkokyoai.jp/setolier.html>

日本遺産ロゴマーク



瀬戸市ロゴマーク



## セトリエ動物園

窯元の多い赤津で見つけた、陶製フクロウの道しるべ。親子で福招き?!



# セトリエ 定期お届け便 はじめました!(無料)

セトリエの最新号を、毎号ご自宅やお店に、無料でお届けする「定期お届け便」のお申し込み受け付けが始まりました。ぜひセトリエ本誌を手にとってご覧ください。

- 冊子も送料も無料でお届けします。
- 定期読者にイベントのご案内等をお知らせします。
- ※ このサービスとは別にセトリエを設置または配布していただけるお店や施設も、随時募集中です。瀬戸焼振興協会までご連絡ください。



ガラスにはスコア(傷)をつけてあるので切りやすい。



並べるだけでは溶けても接着しないため、重ねるような感じで配置する。



完成したらテグスを付け、ルームアクセサリーやオーナメントに。

電気炉(キルン)で板ガラスを熔かし、アクセサリーや器などをつくる「ガラスフュージング」。せと銀座通り商店街の「ナカイガラス制作所」には、中井亜矢さんのカラフルなアクセサリーが店頭に並びます。今回は無色透明(クリア)の板ガラスのみを使い、「雪の結晶」をつくってみました。

まずはコンパスで六角形を作画し、好きなデザインの結果を描いていきます。その下絵の上に、ペンチで切った板ガラスのパーツを配置。継ぎ目を専用のりで仮留めをしたら終了。窯に入れて焼成後、一週間で手元に届きます。



## ナカイガラス制作所

- 愛知県瀬戸市朝日町27
- 0561-58-3853
- 10:00 ~ 18:00 (体験受付は17:00まで)
- 休 火・水・木曜日
- 料 フュージング 2,000円 ※焼成代・送料含む
- 作 制作時間 30~60分
- URL <https://nakaiglass.jimdo.com>



セトリエさんと体験しよう!  
ガラスが溶けると雪の結晶に!

## キルンアート

## セトヤキギフト

つくり手もつかい手も楽しい

## ぐい呑み

おちょこはちよこっと、ぐい呑みはぐいっと。呑み方で大きさや形、呼び名が違ってくるころがおもしろい。ぐい呑みは、桃山時代の茶事懐石に用いられた大ぶりの盃が起源という説も。現代では逆に、小向付として酒肴を「ちよこっと盛り」するのにも使われる。

ぐい呑みはひとつひとつが表情豊かで個性があるだけに、コレクションしやすいやきもの。毎年の誕生日や記念日に、贈る相手の顔を思い浮かべつつ選ぶのも楽しい。



「つくり手がそう」

### 鐘忠陶器

- 愛知県瀬戸市栄町36-1
- 0561-82-5359
- 9:00~19:00
- 休 月曜(祝日は営業)



まず見た目を愛で、手に取り、口をつけた時の感触や「なじみ」具合を楽しむ。釉薬の違いなどお酒の味まで変わるから不思議だ。

- ▼ 工房えん 波多野正典
- 「釉彩カップ」(奥2点)「織部つし柿」(手前1点)